

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380649

研究課題名(和文)主観的社会経済的地位が健康に与える影響とそのメカニズムについての実証的研究

研究課題名(英文) Quantitative Study on The Influence of Subjective Socioeconomic Status on Health Outcomes

研究代表者

神林 博史 (Hiroshi, Kanbayashi)

東北学院大学・教養学部・教授

研究者番号：20344640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、不平等が健康に与える影響の一部として、「自分が社会のどこに位置しているか」という認識である主観的社会経済的地位(SSS)と健康の関係に注目し、両者をつなぐメカニズムを実証的に解明することにある。

SSSと健康の関係は、(1)相対的剥奪、(2)心理的資源、(3)損失回避性、の3つの要因によって媒介されると考えることができる。全国の20歳から59歳の成人男女3000人を対象として行ったインターネット調査の結果、SSSと健康の関係は、主に相対的剥奪と損失回避性によって媒介されていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Subjective socioeconomic status (SSS) is the perception of people where they are located in the social hierarchy. Studies in the last 15 years show that SSS is independently related to health outcomes and the effect of SSS is equal or higher than objective socioeconomic status. However, the causal mechanism between SSS and health has not been fully explained.

The purpose of this study is to investigate the mechanisms between SSS and health outcomes. Theoretically, the relationship between SSS and health outcomes could be mediated by three factors: relative deprivation, psychological resources, and loss aversion (prospect theory). In this study, a nationwide Internet survey (N=3,000, men and women from 20 to 59 years old, by quota sampling which was controlled resident area, age and gender) was conducted in 2015. The results of data analysis showed that the relationship between SSS and health outcomes was mediated by relative deprivation and loss aversion mainly.

研究分野：社会学

キーワード：健康 社会階層 主観的社会的地位 階層帰属意識 不平等 格差

1. 研究開始当初の背景

(1) 収入・職業・学歴などの社会経済的地位と健康の間には関連が存在し、社会経済的地位が低い人ほど健康状態が悪い。このことは、社会疫学研究などですでに広く確認された事実である。

社会経済的地位には、収入・職業・学歴などの客観的な指標の他に、「自分は社会の中でどこに位置すると思うか」といった質問で測定される主観的社会経済的地位 (Subjective Socioeconomic Status または Subjective Social Status、以下「SSS」と略す) も含まれる。SSS は客観的な社会経済的地位とは独立に健康に影響し、その影響力は客観的な社会経済的地位と同等かそれ以上であることが、2000 年以降の研究で明らかになってきた。

(2) この事実は、社会経済的な不平等が健康に与える影響の中に、これまでに十分知られていなかったメカニズムが存在する可能性を示唆している。それゆえ健康の社会的決定要因 (「なぜ不平等は健康に悪いのか」) を考える上で、SSS と健康の関連は興味深いものといえる。また、やや専門的になるが、SSS と健康の関連については興味深い点ももう 1 つある。それは SSS の効果の非対称性である。SSS を「上」「中」「下」のようなダミー変数として処理した時、「上」よりも「下」の方が健康との関連が強く観測されることが、いくつかの研究で確認されてきた。

(3) しかし、SSS がどのようなメカニズムで健康に影響を与えるのか、またなぜ健康に対し非対称な効果を持つのかについては、これまでのところ、十分に解明されていなかった。

2. 研究の目的

そこで本研究では、SSS と健康の關係に注目し、SSS と健康をつなぐ具体的なメカニズムを実証的に解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) まず、先行研究のレビューを行い、SSS と健康をつなぐと考えられる理論的なメカニズムの候補を選定した。本研究では、相対的剥奪、心理的資源、損失回避性、の 3 つのメカニズムを検討することとした。

相対的剥奪とは、本来なら得られるはずの地位や財を得られない状態のことである。相対的剥奪状態にある個人は、強い不満やストレスを抱える可能性が高く、このことが健康に悪影響を与えると考えられる。そして一般には、社会経済的地位あるいは SSS が低い人ほど、相対的剥奪に陥る可能性が高い。

心理的資源とは、生活において生じる困難やストレスに耐え、それを克服する心理特性のことである。具体的には、自尊心、楽天性、首尾一貫性感覚、コントロール感などがこれ

にあたる。一般に SES または SSS が高い人ほどこれらの心理的資源が豊かであり、「SSS 心理的資源 健康」という媒介関係が存在することが先行研究で確認されている。

損失回避性はプロスペクト理論における重要概念の 1 つである。人は、何かを得るよりも失うことにより強く反応する。これを損失回避性と呼ぶ。損失回避性の低い人 (地位や財を失う可能性が高い人) は、そのことがストレスや不安の原因になり、健康に悪影響を及ぼすと予想できる。

以上をまとめると、低 SSS であることは、相対的剥奪の増大・心理的資源の低下・損失回避性の低下をもたらし、それが健康に影響すると考えられる。また、相対的剥奪と損失回避性は、SSS の効果の非対称性も同時に説明できる (SSS が低い時に相対的剥奪や損失が発生しやすいため)。これら 3 つの媒介メカニズムが本当に健康に影響するか否か、影響する場合はどのメカニズムの影響力が強いのかを検討することが、分析の焦点となる。

(2) 3 つの媒介メカニズムの効果を検討するデータを得るため、インターネット調査を実施した。調査概要は以下の通りである。調査名称:「くらしと健康に関する意識調査」。

調査企画者: 神林博史 (研究代表者)。
調査実施者: 株式会社日本リサーチセンター (NRC)。調査時期: 2015 年 12 月 18 日 ~ 2015 年 12 月 24 日。調査対象: 株式会社日本リサーチセンター (NRC) のモニター (全国の 20 歳 ~ 59 歳までの男女)。標本抽出方法: 年齢層、性別、地域 (都道府県) を基準とする割当法。人口情報は、平成 27 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口 (市区町村別) (総計) に基づく。標本サイズ: 3000 人。

調査方法: インターネット調査。倫理審査: 本調査の実施にあたっては、東北学院大学大学院人間情報学研究科研究倫理委員会の審査および許諾を得た。

一般に、インターネット調査は通常のランダムサンプリングによる調査よりも標本の代表性が劣るとされる。しかし、日本におけるランダムサンプリングの訪問面接調査とインターネット調査の比較研究によれば、インターネット調査の標本抽出が適切になされている場合、回答や回答者属性の分布については 2 つの調査法の間にある程度の差異がみられるものの、変数間の関連には大きな差がないことが報告されている (轟・歸山 2014)。本論文の目的は、SSS や健康アウトカムの分布を把握することではなく、両者の関連がどのように作り出されているかを検討することである。この目的からすれば、インターネット調査で得られたデータであっても、得られた知見にある程度の一般性はあると考えられる。(なお、「くらしと健康に関する意識調査」に先立って、平成 26 年度に同様の方法で標本サイズ 500 の予備調査を行った。)

(3) 上述の調査で得られたデータを分析し、SSS と健康を媒介すると考えられるメカニズムの検討を行った。分析の概要および主要な結果については「研究成果」で詳しく述べる。

4. 研究成果

(1) 主観的健康および精神的健康 (K6) の2種類の健康を従属変数とするロジスティック回帰分析を男女別に行うことで、SSS が健康に与える効果と、SSS と健康を媒介すると考えられる変数の影響を検討した。独立変数は、以下の6種類に大別される。(1) デモグラフィック変数 (年齢、性別) (2) 客観的な社会経済的地位 (学歴、職業、従業上の地位、等価世帯収入) (3) SSS (10段階の評価を「上の上」「上の下」「中」「下の上」「下の下」に再編し、「中」を基準カテゴリとするダミー変数) (4) 相対的剥奪 (8指標) (5) 心理的資源 (4指標) (6) 損失回避性 (2指標) (6) その他のコントロール変数。

(2) 分析の結果、以下の四点が明らかになった。

第一に、相対的剥奪は SSS と健康の関係にある程度媒介することが判明した (媒介の程度は、従属変数および性別によって若干異なる)。相対的剥奪については、客観的な剥奪指標2種、主観的な剥奪指標6種、計8指標の効果を比較検討したが、世帯収入のような特定の社会経済的地位に基づく剥奪指標よりも、消費も含めた総合的な生活状況の剥奪状態を表現する指標の方が明確な効果を持つことがわかった。

第二に、損失回避性については、「将来の自分の生活水準が低下する」と認識していることが、SSS と健康の関係を媒介していることが示唆された。

第三に、今回のデータでは SSS と心理的資源 (指標として、首尾一貫性感覚、マスタリー、楽観主義、自尊心の4つを用いた) の関係が先行研究で示されていたほど明確ではなく、SSS と健康の媒介要因としてはあまり機能しないこと、すなわち心理的資源をコントロールしても SSS の効果が低下・消失しないことが判明した。この結果が、調査データの特性に由来するのか、そうでないのかは今後さらに詳しく精査する必要がある。

第四に、これら3つの媒介要因の影響をコントロールしても、SSS と健康の関連は完全には消失しなかった。このことは、今回注目した3つのメカニズム以外にも、SSS と健康の関連を作り出すメカニズムの存在を示唆している。

なお、本研究では分析のための基本モデルとして「SSS 媒介要因 健康」という因果関係を想定した分析を行った。しかし、SSS と相対的剥奪および損失回避性の間の因果関係は、より慎重に考える必要がある。これらの要因の因果関係は、基本モデルよりも複雑な可能性が高い。

(3) 本研究で得られた成果は、大きく二つの意義を持つと考えられる。

第一に、本研究の成果は「社会的不平等と健康」という社会的・学術的に重要なテーマで検討されている最先端の問題に一定の貢献をもたらしている。客観的な不平等の状態とは別に、不平等に対する認識が健康に悪影響を与えることはすでに多くの研究において指摘されてきたが、本研究はその影響メカニズムの一端をより詳しく示すことができた。

第二に、本研究の知見は、これまでの社会階層研究、社会疫学研究における不平等の把握の仕方の再検討を促すものになっている。これまでの研究では、不平等の状態を客観的な社会経済的地位で把握することが主流であった。しかし、本研究の知見は、消費も含めた生活状況全体の不平等を把握することの重要性を示唆している。もちろん、このこと自体はすでに多くの研究が指摘していることであるが、本研究の成果からも、そのことを支持する結果が得られたことは重要である。

とはいえ、本研究の知見は調査法やデータの制約もあり、未だ暫定的なものに過ぎない。今後は、より一般性の高いデータを用いることで、本研究の知見を確認・発展させていく必要がある。

< 引用文献 >

轟亮、歸山亜紀、予備調査としてのインターネット調査の可能性：変数間の関連に注目して、社会と調査、12号、2014、46-61

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

神林博史、「主観的社会的地位と健康」研究の動向と課題：階層意識研究の視点からのレビュー、人間情報学研究、査読有、21号、2016、pp.59-82、http://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/ghi/kenkyujyo/kiyou/ronbun/no21/no21_kanbayashi.pdf

[学会発表](計3件)

神林博史、なぜ「下」であることは健康に悪いのか：主観的社会的地位と健康の関連についての計量分析、第63回東北社会学会大会(2016年7月31日)

神林博史、主観的社会的地位と健康：3つの媒介メカニズムの検討、第89回日本社会学会大会(2016年10月9日)

神林博史、相対的剥奪の2つの相：主観的幸福に対する剥奪感と剥奪状態の効果の比較、第63回数理社会学会大会(2017年3月15日)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

神林博史、「くらしと健康に関する意識調査」報告パンフレット、2017、全44頁(2016年12月に実施した「くらしと健康に関する意識調査」の主な調査結果を、一般向け成果報告パンフレットとしてまとめた)
http://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=132903

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神林 博史 (KANBAYASHI, Hiroshi)
東北学院大学・教養学部・教授
研究者番号：20344640